

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 26 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23593430

研究課題名(和文) 女性アルコール依存症者の死への転帰を予防するための断酒継続プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of the abstinence from alcoholic drinks continuation program to prevent an outcome to the death of the person with woman alcoholism

研究代表者

河村 一海 (KAWAMURA, Kazumi)

金沢大学・保健学系・准教授

研究者番号：50251963

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：「女性アルコール依存症者の断酒継続につながる思いについての質問紙」を「断酒継続出来ていない女性アルコール依存症者」に対して実施したところ、ミーティングに出席することの価値や参加による満足感が十分に得られず、出席が中断され、その結果再飲酒につながってしまうのではないかと示唆された。しかし、ミーティングそのものは認めており、また「定期的にミーティングに出続けることにより、うつ発見・早期治療につながると思う」に対して「非常にあてはまる」と答えており、本研究において、この質問紙を使い、ミーティングへの参加を促し続けることが重要であることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)： A questionnaire survey about thoughts that contribute to sustainable abstinence in women with alcohol dependence was conducted with alcoholic women who had been unable to remain abstinent. The survey data suggest that the women were unable to discover the value or feel the satisfaction of attending meetings, leading them to discontinue their attendance and return to drinking. However, these women recognized the importance of the meetings, and they also answered “definitely yes” to the questionnaire item asking whether “regular attendance at meetings promotes the early detection and treatment of depression.” The findings of this study revealed that it is important to continue encouraging alcoholic women to attend meetings using the present questionnaire.

研究分野：精神看護学

キーワード：女性アルコール依存症者 断酒継続プログラム 認知行動療法 うつ状態の予防 死への転帰の予防

1. 研究開始当初の背景

近年飲酒と薬物の併用による自己あるいは自殺企図の死亡がマスメディアの世界でも頻回に取り上げられており、またアルコールとうつ病に密接な関係があるという報告からも今後このような死亡件数が増えていく可能性が高い。

一方近年女性のアルコール依存症者が増えてきており、社会的な問題にもなっている。この病気は長期の飲酒歴によって起こることが特徴であるが、女性の場合短期の飲酒歴でかつ飲酒量が比較的少量でも急速にアルコール依存症となってしまう危険があり、男性以上に生活の破綻や生命への危機にもつながりやすい。

女性アルコール依存症の特徴については、女性のアルコール関連問題についての偏見が男性以上に強いことの報告や女性の問題飲酒にはライフサイクルや性役割意識が関連しているということでの報告がある。またアルコール依存症の回復における自助グループの重要性についてはいくつかの先行研究で報告されているが、女性アルコール依存症と自助グループに関する研究は非常に少なく、その回復過程の困難さについて女性メンバー同士の体験から明らかにしたことの報告しかない。

また女性の社会進出の増加や男女雇用機会均等法の設置とともに男性と同じような職務ストレスを受ける女性が増え、それとともに女性の飲酒機会は増えてきていることでアルコール依存症になる女性も増えてきている。一方仕事をしていない女性においても家庭に閉じこもり、話し相手がいない寂しさを埋めるためについ酒に手を伸ばしてしまうということが原因となる主婦のアルコール依存症についても依然として問題となっている。

女性がアルコール依存症になることで家族関係や子どもの心身の発育に対する影響は大きく、また女性のアルコール依存は男性アルコール依存症者とは違った様相で生じるともいわれており、女性アルコール依存症者の回復に対する看護や支援には、社会的な背景や性役割など男性アルコール依存症者とは異なる視点での介入が必要であると考えられる。

2. 研究の目的

女性のアルコール依存症者に起こりうる死と直結する行動(アルコール依存症と合併する「うつ病」による自殺、多量飲酒時の事故等)を予防し、彼女らが安定した日常生活を営み、QOLをより向上させることのできるためのプログラムを開発する。

3. 研究の方法

断酒継続に成功している女性アルコール依存症者(以下成功者とする)へインタビューを行い、その内容を質的に分析することに

より、成功者が断酒継続のための治療をどのように受けとめ、今日に至っているのか、断酒継続できていることをどのように考えるのか、成功者の特徴(感情・思考・物事のとりえ方や女性特有の悩み等)を明らかにする。

成功者の特徴を参考にした質問紙を開発・使用することで、成功者と断酒継続が困難な女性アルコール依存症者(以下困難者とする)の違いを導き出す。

困難者の断酒継続を可能にするためのプログラムを開発し、そのプログラムを用いた介入を行いプログラムの効果を明らかにする。

4. 研究成果

1)女性アルコール依存症者が女性のみメンバーで構成される Alcoholics Anonymous ミーティング(以下 AA)に参加することで、特にアルコール依存症からのうつ状態への移行への予防という点を重視して明らかにすることを行った。

その結果、4のカテゴリーと13のサブカテゴリーが抽出された。

- (1) カテゴリー1:参加によるひきこもりの予防(3のサブカテゴリー<参加のための外出による気分転換><引きこもりによる病状悪化の予防><自宅以外の居場所の確保>から構成されており、ミーティングに行かなければならないと奮起して外出することが気晴らしになって、家に閉じこもり病気になることを予防できたのではないかとことが語られていた。)
- (2) カテゴリー2:安心して自分を取り戻せる場の確保(3のサブカテゴリー<命あることの喜び><話したり聞いたりすることによる安心感・安楽感の確保><ありのままの自分の許容>から構成されており、AAに参加するまでは自分の怒りの感情に対して罪悪感をもっていたのが、自分の感情を素直に出せるようになり、そんな自分を許せるようになったと評価していた。)
- (3) カテゴリー3:依存症から離れる力を得る場の確保(3のサブカテゴリー<新しい生き方を知ったことによる精神的安楽><定期的参加による日々の落ち込みからの回復><ミーティングの存在が心のよりどころ>から構成されており、ミーティングに参加して自分の思いを吐き出し、スッキリした気分になることでホッとしたり、安心感が得られることで気持ちが楽になったり、居心地がよいので寂しさが紛れたりしたことや、ミーティングで他の人の話を聞いてあげること、他の人から必要とされる自分の存在価値を再確認できたこ

- とが自分の心の安定につながったと評価していた。)
- (4) カテゴリー4: 女性同士の共感と語りの共有 (同性のアルコール依存症者の存在ということに関する4のサブカテゴリー<女性しかいないので安心して泣いたり、吐き出したりできる場所の確保> <同性であるスポンサーや仲間と同じ時間を共有することによる安心感> <女性アルコール依存症は自分だけではないと思えることによる癒やし> <会って分かち合える同性の人が存在することの喜び> から構成されており、女性のアルコール依存症という共通項の強さでつながっている人達に話を聞いてもらったり、話を聞いてあげたりする、すなわち同じ場所で同じ時間を過ごすことで、自分自身が癒やされたり満足したりできることについての思いが語られていた。

2) この導き出されたカテゴリー、サブカテゴリーを参考に、断酒継続に成功しているアルコール依存症者の断酒継続に対する特徴や自助グループに対する思いを参考に「女性アルコール依存症者の断酒継続につながる思いについての質問紙」を作成した。

項目の内容は、断酒行動そのものや飲酒・断酒に関する対人関係 (家族及び友人等) に関する内容、断酒行動に伴う生活環境の調整 (職場及び冠婚葬祭等における機械飲酒の回避等) に関する内容を含むものとした。

具体的には「女性のみミーティングでは、混合ミーティングでは出来ない話が出来てホッとしたことがある」「女性ミーティングの仲間の話から、自分のことについて新しい発見があった」「女性ミーティングへの参加をしばらく中断していて、久しぶりに来たとしても安楽感を感じる」「自分のことを見てくれている人がいるというのがすごくうれしいと感じるので、ミーティングに来ているのだと思う」など56項目から構成されており、各項目「非常にあてはまる」を5、「全くあてはまらない」を1とした5段階評価で回答できるものとした。

3) この質問紙を「断酒継続出来ない女性アルコール依存症者」に記入してもらったところ、「断酒継続出来ない女性アルコール依存症者」が2)で示した項目に対して、「非常にあてはまる」「まあまああてはまる」と回答した者が多かったことに対して、「断酒継続出来ない女性アルコール依存症者」では「あまりあてはまらない」「どちらともいえない」と答えた者が多かった。そのため、ミーティングに出席することの価値や参加による満足感が十分に得られず、出席が中断され、その結果再飲酒につながってしまうのではないかということが示唆された。

しかし、「辛い思いをしている仲間の話には、年齢差や立場を越えて共感できるものが

ある」「女性ミーティングに出て、女性アルコール依存症者がたくさんいたことでの安心感を得ることが出来た」という質問に対しては「非常にあてはまる」と答えており、ミーティングそのものは認めており、また「定期的にミーティングに出続けることが自分に充電することになり、うつ早期発見・早期治療につながると思う」に対しても「非常にあてはまる」と答えていることから、本研究の「死への転帰を予防する断酒継続プログラムの開発」において、この質問紙を使い、ミーティングへの参加を促し続けることが重要であることが明らかになった。

4) また「断酒継続出来ない女性アルコール依存症者」に対して、先の質問紙記入の依頼にあわせて行ったインタビューの結果、彼女らがなぜ断酒継続出来ないかについては、女性AAミーティングに対してネガティブなイメージをもったことで、今後は参加したくないと思った方や、断酒は出来ないが、ミーティングに参加することで、何とか節酒は出来ている方がいた。また入院をきっかけに断酒できた方もおり、この方に関しては、断酒を続けていく経過中の思いについて引き続き観察していく予定にしている。

5) 今後は「女性アルコール依存症者の断酒継続につながる思いについての質問紙」の使用と、インタビューにより「断酒継続出来ない女性アルコール依存症者」に対して断酒継続が出来るような介入を続けていくことを予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

河村一海、長谷川雅美、女性アルコール依存症者のAA女性ミーティング参加によるうつ状態予防に関する認識の変化、日本精神保健看護学会誌、査読有、24巻1号、2015、発行予定

〔学会発表〕(計 1件)

河村一海、長谷川雅美、女性アルコール依存症者の女性AAミーティング参加への思い～うつ状態移行への予防に焦点をあてて～、第8回日本うつ病学会総会、2011年7月1日～7月2日、大阪国際交流センター(大阪府大阪市)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河村 一海 (KAWAMURA, Kazumi)
金沢大学・保健学系・准教授
研究者番号：50251963

(2) 研究分担者

長谷川 雅美 (HASEGAWA, Masami)
金沢医科大学・看護学部・教授
研究者番号：50293808

長田 恭子 (NAGATA, Kyoko)
金沢大学・保健学系・助教
研究者番号：60345634

(3) 連携研究者

なし